



2025 年 11 月 01 日

アルー株式会社

(コード番号：7043 東証グロース)

～お悩み解決！若手の離職防止を考える～

第 6 回 発信の基本は「押しつけない」

■自分の考えや感情をぶつけてしまう

発信のテクニックは様々ありますが、最も大切なことは「自分の意図を相手が正しく受け取ってくれる」ことです。

しかし、職場では相手が受け取れないような発信をしてしまうことがよく見受けられます。

例えばこんな事例です。

ミスをした部下に対して上司は強い口調で「何でこんなミスをしたのだ！」と言いました。それに対して部下はひたすら「申し訳ございません、次から気を付けます」と繰り返すばかりでした。

この上司の発信の何が問題かといえば、「自分の考えや感情を一方的に押しつけていた」ことに尽きます。

上司の本当の意図は「ミスの原因を追究し、再発を防ぎたい」だったのですが、押しつける言い方をすることで部下は「問い詰められている」と捉えてしまい、心の中で「この場が早く終わってほしい」と思いながら聞いていたので、上司が伝えなかったことを全く受け取れなかったのです。その結果、ミスの再発防止どころか忘れたころにまた同じようなミスをしてしまいました。

■ぶつけるのではなく、足元に置く

ではどうすればよかったのでしょうか。発信する側がつい「一回でわかってほしい」と思ってしまうので押しつけるような言い方をしてしまいますが、どんな人でも一回で完璧に理解することはできません。

必要なことは会話を重ねて互いの認識をすり合わせることであるため、相手が反論できないような発信の仕方よりも、反論も言い訳も気軽に言えるような発信の仕方がむしろ効果的です。

先ほどの例でいえば、「この部分でミスがあったけど、何か困ったことはあったのかな？」と上司が尋ねることで、ミスした事実は指摘しつつも、ミスをした部下の本音を引き出すことができます。イメージとしてはボールを相手にぶつけるのではなく、相手の足元に置いていくことで、相手は受け取りやすくなります。

仕事では言うべきことは言う必要がありますが、相手に納得して頂いたほうが仕事は前に進みますので、「押しつけない発信」をぜひ心がけてみてください。

次回からは若手との関わり方について考えてみたいと思います。

アルー株式会社 人材育成コンサルタント 孔令愚

※本内容は、「SHINKIN 情報玉手箱」(発行：東京都信用金庫協会 編集：近代セールス社)の令和 6 年 9 月号に掲載されたものです。本内容の一部または全部を許諾なく無断で複写・複製、磁気媒体・光ディスクへ入力等することを禁じます。



■アルー株式会社について

アルー株式会社は、「夢が溢れる世界のために、人のあらゆる可能性を切り拓きます — all the possibilities —」という Missionのもと、『育成の成果にこだわる』ことをテーマに、人材育成支援事業を行っています。新入社員から経営者層までの幅広いレイヤーに対する階層別研修の実施をはじめ、グローバル人材や DX 人材の育成などのテーマ別教育プログラムの提供、さらにはラーニングマネジメントシステム「etudes」を用いた eラーニングの提供などを通して、組織や個人の成長を人材育成の側面から支援しています。顧客ごとに個別最適化されたソリューションの提案および実施によって顧客企業の多様な課題を解決することを目指し、グループ全体で事業に取り組んでいます。

<https://www.alue.co.jp/>

■本件に関するお問い合わせ先

- ・アルー株式会社 コーポレート部
- ・ホームページお問い合わせフォーム

Tel 03-6268-9791

<https://mkt.alue.co.jp/l/882713/2021-03-18/xjpp>